５つの森林活動

みなさまの参加を
お待ちしております

小手澤の森

第１・３日曜日

知足の森

第１・３日曜日

相模湖・嵐山の森
小原本陣の森
草莽荘の森
不定期活動

News Letter

NPO法人緑のダム北相模
midorinodam.jp

No.541-542
８月に底沢で予定の体験学校の下見を実施しました

【定例活動報告】

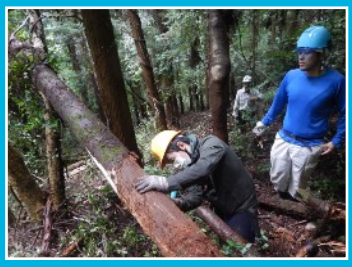
ForestoClass

ここ最近のForesTo Classは、コロナからの緊急事態宣言や主要メンバーの転勤・転職、また普段の仕事が忙しくバタバタしたりもあり定例活動にもなかなか参加できず、ようやく４月くらいから自分１人ではありますが少しずつ参加させてもらっている次第です。他のメンバーも何年か先には転勤先から東京に帰ってくる予定だったり仕事が落ち着いて近いうち活動にも参加していけらたと言ってくれているので、また昔のメンバーで集まって活動できる日がきたら嬉しいなと。

さて、ここ最近は自分１人だけの参加という事で宮村さんと学生さん達の活動に動向させてもらっており、一緒に伐採をしたり、学生さん達が行う伐採の指導・補助をしています。伐採に関しては皆さん結構、活動している

緑のダム北相模は相模原市内で活動する森林ボランティアです。急がず、無理せず、楽しく、休まず、 ボチボチと・・。

事もあり、作業の方法や流れ、コツなどは大体、把握しているので、特に大きな間違いや危険性がない限り口は挟まないようにしていますが、危険予知とその対策に関してはやはり経験不足から危ない部分が見られる事もあるのでその辺はよく意識しながら注意して見させてもらっています。作業する上での木の状態、木がどういう動きをしそうか、何か近くまたは周囲に危険はありそうか、危険があったらどう対処するか、どこへ逃げようかなど、その辺の見ないといけない所や考えないといけない所はやっぱり場数や経験とその時に意識して見て・考えた上での情報の蓄積なので、その時、その時で何か少しでも一言二言ポイントをアドバイスするのが自分の役割なのかなと。



これからまた暑くなって何かと起こりやすい時期になってきますが、皆さんが安全により楽しく作業できるように微力ながら力になっていけるよう頑張っていきたいと思います。

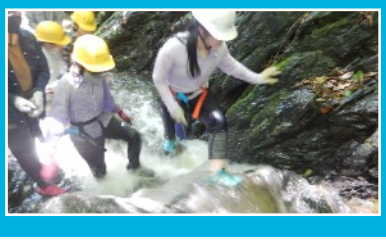
二藤　政毅（本会、理事）

【定例活動報告】
知足の森

今月は８月実施予定の体験学校で使う底沢のチェック、というよりも中学生主体の若者の森のお楽しみ会的な要素が強いですが、を行いました。

今日は沢の整備を行いましたが進んでいくにつれ抵抗がなくなっていきいろんな発見が出来ました。その中から二つ紹介します。一つ目は、沢の深さが場所のより深くなったりしていたことです。元々先生から話を伺っていましたが、実際に歩いていて急に深くなっている所がありとても驚きました。プールとは違う沢ならではの特徴なのかなと思いました。二つ目は、進んでいきながら途中で小学生が通っても危なくないよう木を切ったり竹を運んでいく中で、木の生え方がそれぞれ違うことに気づきました。沢の方向に向かって伸びている木もあれば真っすぐ伸びている木もあり違いが見ていて面白かったです。今回の活動で私が特に印象に残っているのは小さな崖のようなものに登ったことです。水が流れていて一見そこまで流れが激しくないのですが、実際登ると水の力が強く足場を探しながら登るのが想像以上に難しかったです。今回の活動では様々な経験ができ、これからの活動でもいろんな発見ができるといいなと思いました。

今井　裕美（GREEN TECH ENGINEER LAB　中学１年）



桜井尚武の森のコラム

「ヤブガラシ (*Cayratia jponica*)

図1　ヤブカラシ

20210714汐入公園

身近の藪や緑地の植え込みなどに普通なブドウ科のつる性多年草本でビンボウカズラの別名があります。アジアの温帯から亜熱帯に分布し、日本では北海道南西部から沖縄までの全土に出現します。

5枚の小葉からなる掌状複葉を互生し葉の付く節の対生の位置に時々巻きひげを生じます。小葉は6～7枚の場合もあります（図1）。花序を付ける節では葉を対生します（図2）。

巻きひげで這い登って植生を覆い（図3）時に覆った植生を枯らしてしまうことからこの名が付いたといわれます。図3は手入れされたツツジの植え込みにあとから発生したヤブカラシが急激に伸びてツツジの植え込みを覆い始めているところです。この周囲には新しい蔓が沢山発生しています。別名の「ビンボウカズラ」の語源は蔓雑草の手入れも出来ないほど貧乏くさい所にはびこるからだそうです。

図2　花序の節と対生の葉

20210815南千住

本種は地中に太く丈夫な根茎を伸ばしそこから新たな新茎を発生させ分布を拡大します。この発生の勢いは強いので出た蔓を抜いても根絶は中々難しいのです。根絶するにはこの根茎を丁寧に掘り起こして除去しなければなりませんので大変です。この根茎は太いゴボウを横に寝せたようなものだったのを覚えています。

ヤブガラシの実際の発生場所は人間の攪乱のある範囲にほぼ限られていて、山野の自然植生の中には余り見あたりません。この事実から推測すると、この種は本来の自生ではなく、過去に移住してきた人々と共に入り込んできた史前帰化植物なのかも知れません。

図3　蔓延るヤブカラシ

20210714汐入公園

本種は毒はなく食感はいいという情報がありました。新芽を摘んで茹でるのですがあくが強いので茹でたあと一晩位水に浸してあく抜きをする必要があるとありました。沢水があればそこに浸け置きすればいいのですが、普通の家庭では少しの水道水を流しっ放しにしておくことになるのでしょう。

桜井　尚武（本会、会員）

【GREEN TECH ENGINEER LABの活動から】

今月は第１日曜日が学校行事関係で実施できなかったため第２日曜日に臨時で作業しました。長福寺の間伐の続きを行い、森の神様への挨拶も定着してきました。午前４本間伐し、午後は境界線調査のためドローンを持って尾根を上がりましたがまさかの雷雨。粟田さんが空気感で雷雨を察知し、離陸前で助かりました。また、大学の活動で行っている小手澤の森につける樹名板も第１段を設置しました。これはラボ内でのDBJ（デジタル、ベンチ、樹名板を並行して行うチーム）というチームの生徒がレーザー加工機でアクリル板を切り出し、文字部分を塗装しています。

宮村　連理（本会、副理事長）

NPO法人
緑のダム北相模

名称：特定非営利活動法人　緑のダム北相模
現地事務局：〒252-0172　相模原市緑区与瀬本町12　かどや食堂内
支援団体：セブン-イレブン記念財団
積水ハウスマッチングプログラム、国土緑化推進機構
コンサベーション・アライアンス・ジャパン
協働団体：神奈川県、相模原市、麻布大学、マルモ出版、
東京学芸大学環境教育研究センター、
（社）東京学芸大EXPLAYGROUND推進機構、
（社）さがみ湖 森・モノづくり研究所、ウッドバンク㈱

参加にあたって：

初参加者は、9時15分までにJR相模湖駅前に集合です。服装、持ち物については、汚れても良い服装、着替え、滑らない靴　成るべく皮製手袋、万一の怪我に備えて保険証、飲料水、主食、昼食

危機管理・救急対応：

危険管理・救急体制・森林ボランテイア保険の準備の他、会として可能な限りの体制を敷いていますが「怪我・事故は、自己責任」です。

緑の募金　一般財団法人 セブン-イレブン 記念財団　SEKISUI HOUSE MATCHING PROGRAM　CAJ Conservation Alliance Japan 一般社団法人 コンサベーション・アライアンス・ジャパン